Researches on Crustacea No. 6 (1974)
Carcinological Society of Japan
c/o Odawara Carcinological Museum
Azabu-Juban 3-11, Minatoku, Tokyo

エボシガイを付着したスナガニのメガロパについて

〔挿図 2, 表 1〕

村 岡 健 作

(神奈川県立博物館)

MEGALOPA OF *OCYPODA*, CARRYING STALKED
BARNACLE ON ITS BACK

Kensaku MURAOKA

(Kanagawa Prefectural Museum, Yokohama)

筆者はメガロパの背甲にコスジエボシ *Conchoderma virgatum hunteri* (OWEN) が着生し、さらにそのエボシガイにヒドロ虫類が付着した標本を採集した。

カニ類の体表にはいろいろな動物が付着もしくは固着して生活していることはよく知られているが、メガロパに他の動物が着生した例は稀と思われるので、ここに写真を付して紹介する。

Table 1. Size and number of megalopa and barnacle

Megalopa Number	Length of carapace (mm)	Width of carapace (mm)	Number of attached barnacle	Size of barnacle (mm)
No. 1	5.5	4.7	1	5.5
No. 2	5.9	4.8	3	0.9, 3.0, 4.5
No. 3	5.7	4.8	1	2.9
No. 4	5.5	4.8	1	1.0
No. 5	5.7	4.7	1	5.6

コスジエボシが着生していたメガロパは 1973 年 7 月 31 日、三重県紀伊長島の海野部落の漁港で夜間採集したものである。これらのメガロパはいずれもスナガニ *Ocyroda stimpsoni* ORTMANN で、43 個体中に 5 個体着生し、大きさは甲長 5.5~5.9 mm、甲幅 4.7~4.8 mm であった (Table 1)。

着生していたコスジエボシはメガロパの背面にのみ認められ、その背甲に認められた個体数は 3 個体着生していたものが最高であった (Fig. 1)。

コスジエボシは印度洋、マライ諸島および日本に産し、本邦では相模湾、和歌山県瀬戸、土佐湾で採れ、大きさは頭状部の長さ 20 mm 以下で、通常 6~10 mm 位で、ウミヘビやタ

Fig. 1. Spots show the location of stalked barnacles attached to the megalopa, *Ocypoda stimpsoni*.

イワンガザミの体表に着生していることが知られている（内海(弘)1937）。

メガロパに着生していたコスジエボシの大きさは最大のもので全長 5.6mm 位であった。生時は全体茶褐色で、外皮は薄く、殻板は縁辺に認められた。またこのコスジエボシの表面には小形のヒドロ虫類が付着していた個体も認められた（Fig. 2）。

本邦産のスナガニのゾエアからメガロパ、そして第 1 稚蟹に変態するまで飼育し、観察した報告はないが、アメリカ産の *Ocypoda quadrata* (FABRICIUS) を用いて、卵から孵化したゾエア、そしてメガロパまで飼育した報告はある（DIAZ & COSTLOW, 1972）。

それによれば、メガロパに達するまでの期間は最低 34 日間で、ゾエアは 5 期確認されている。ゾエアから変態したメガロパは 2 日以内に死亡してしまったため、第 1 稚蟹に達するまでの日数については観察されていない。

本邦産のスナガニのメガロパは夏から秋にかけて最も多く出現し、日中は浅海の海底ですごし、夜間は表層に浮遊していることもある。特に夜間集魚灯のような明るい光に集まる習性をもっている。このメガロパは沖合で一定期間遊泳した後、砂浜に漂着し、そこで脱皮し、稚蟹に変態するものと思われる。

筆者は紀伊長島で採集したメガロパのうち、5 個体（いずれもコスジエボシを着生していないもの）をシャーレに砂を敷き、海水を浸して飼育したところ、3 日以内に 3 個体が稚蟹に変態した。残りの 2 個体は日数も長びき、途中で死亡してしまったが、飼育条件さえ整えばかなりの個体が早期に脱皮するものと思われる。またメガロパが得られた付近の砂浜で、スナ

Fig. 2. Megalopa of *Ocypoda stimpsoni*, carrying stalked barnacle, *Conchoderma virgatum hunteri* (OWEN) on its back. The barnacle also carrying a mass of Hydrozoa.

ガニの生息状況を調査したところ、第1稚蟹期、もしくはそれに近いステージの大きさのカニ5個体(甲長5.0–6.0 mm)を採集することができた。

これらのことから、ゾエアから変態したメガロパが稚蟹に変態するまで、それほど長期間かかるとは思われないし、またコスジエボシについてもその大きさから推定して、変態直後のメガロパに付着したとも考えられる。ただし、スナガニおよびコスジエボシのいずれについても生活史は明らかでなく、今後観察してみる必要がある。さらにコスジエボシを付着したメガロパが脱皮し、稚蟹に変態するかどうか不明ではない。

本文をまとめるにあたって、御懇篤なる御指導を賜った甲殻類学会長酒井恒博士に厚く謝意を表するとともに、コスジエボシについての同定ならびに御教示いただいた前京都大学付属瀬戸臨海実験所長内海富士夫博士に深く感謝申し上げる。また多大なる御協力をいただいた三重県立松阪高校佐波征機氏および神奈川県立三浦臨海学園佐藤晋氏、ならびに横浜国大教育学部鈴木博氏に厚く御礼申しあげる。

文 献

- 荒 川 好 満, 1963. タカアシガニの性行動について. 甲殻類の研究 1 : 41—46.
- DIAZ, H. & COSTLOW, J. D., 1972. Larval development of *Ocypoda quadrata* (Brachyura : Crustacea) under laboratory conditions. Marine Biology 15 : 120—131.
- 村 岡 健 作, 1972. スナガニ科 *Ocypoda* 属のメガロパについて. 神奈川博研報 5 : 11—18.
- 酒 井 恒, 1965. 相模湾産蟹類. 丸善. 東京.
- 内 田 享他, 1965. 新日本動物図鑑(中). 北隆館. 東京.
- 内海(弘)富士夫, 1937. 日本動物分類, 9 (5). 三省堂. 東京.
- 内 海 富 士 夫, 1955. 日本産蔓脚類の研究, III 生態的事項. 日本生物地理 16—19 : 124—134.